

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年 国語 214人 社会 214人 数学 214人

理科 214人 英語 214人

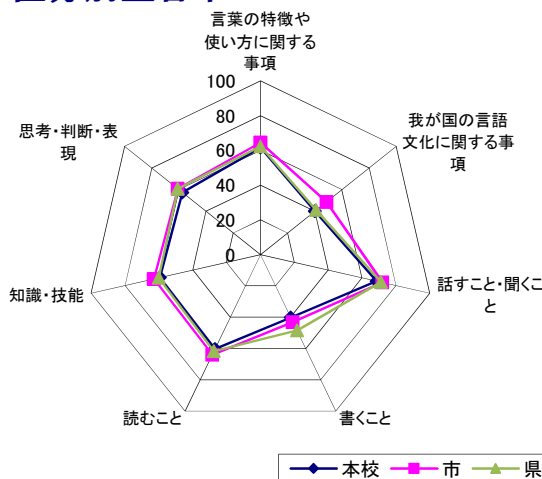
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	61.6	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	40.2	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	68.6	72.1	71.2
	書くこと	40.2	43.1	48.5
	読むこと	60.3	63.9	61.8
観点	知識・技能	59.4	62.9	60.1
	思考・判断・表現	57.4	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

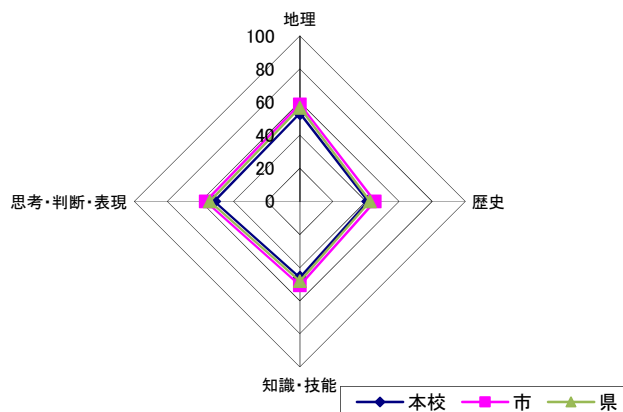
○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均から2.9ポイント下回っている。 ○第1学年までに学習した漢字の読み取り問題で、漢字を正しく読む問題では、正答率が100%の問題があった。 ●敬語の働きについての問題では、市や県の正答率をやや下回っている。	・漢字のドリル学習および小テストに継続的に取り組ませ、正確に漢字を読み書きできる力を育てたい。 ・敬語の使い方についてはAドリルを活用し、敬語の種類や使い方について身に付けさせる。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均から8.5ポイント下回っている。 ●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く問題では、無回答率が市や県の平均を上回っている。	・歴史的仮名遣いに慣れさせ、正しく読む力を育てるために、教科書の作品を何度も繰り返し音読したり、冒頭部分を暗唱したりする時間を多く設定して身に付けさせる。また、教科書以外の作品についてもクロームブック等を用いて触れさせる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均から3.5ポイント下回っている。 ●条件に従って話し合いの結論を書く問題では、無回答率が13.1ポイントであった。また条件を満たしていない回答も多かった。	・目的や条件に合わせて効果的に話す力を養うために、スピーチや話し合い活動など多様な音声言語の学習を取り入れる。また、観点を明示した聞き取りメモを用意し、話の内容や表現の仕方を判断・評価する練習をさせる。
書くこと	平均正答率は、市の平均から2.9ポイント下回っている。 ●全体の3割弱にあたる生徒が無回答だった。条件を満たすことができない回答もあった。	・授業の中で、語句を用いた短文を書かせたり、文章を要約したりする機会を増やし、文章を書くことに慣れさせたい。 ・自分の考えや感じたことを文章にする場を普段の授業から多く取り入れるようにして、書くことの基礎を身に付けさせる。
読むこと	平均正答率は、市の平均から3.6ポイント下回っている。 ○場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を理解することができるかどうかを見る問題では、市の平均を上回った。 ●文章の内容について叙述を基にとらえることができるかどうかを見る問題では、市の平均をやや下回った。	・文学的文章の学習では、登場人物の心情に立って考えさせる場面を多く設定し、心情を読み解く手がかりを示しながら指導していきたい。また、説明的文章の学習では、筆者の意見を的確に捉えることができるよう、語句の意味を正しく理解したうえで論の進め方について意識させる。また、話し合い活動の中から考えを深められるような授業を展開する。さらに、そこから自分の考えを書いたり、伝え合ったりする練習をさせる。

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	53.2	58.7	56.6
	歴史	41.3	45.4	42.4
観点	知識・技能	46.1	50.7	48.2
	思考・判断・表現	51.7	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

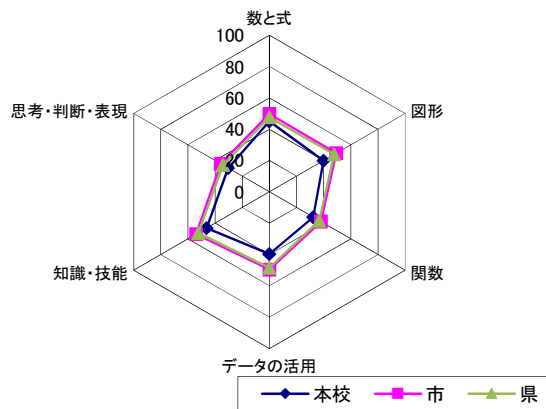
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>平均正答率は県の平均より3.4ポイント、市の平均より5.5ポイント低い。</p> <p>○六大陸と三大洋の名称と位置関係を問う選択式の問題は県の平均より1.0ポイント高い。</p> <p>○資料から読み取れるアンゴラの主な輸出品の割合の特徴を問う記述式の問題は、県の平均より0.8ポイント高い。</p> <p>●日本の領域の端の島々の位置や特色についての理解を問う選択式の問題は、県の平均より10.9ポイント、市の平均より13.9ポイント低い。</p> <p>●アメリカ合衆国の農業の特色について、資料を基に考察する選択式の問題は、県の平均より10.3ポイント、市の平均より11.0ポイント低い。</p>	<p>・日本の領域についての問題は、現在の実社会において自分とのかかわりを意識させながら学習を進めていく。また、同時間帯のライブ映像等を見せたり、ITを活用しながら生徒の興味関心をさらに高めていく授業を展開していく。</p> <p>・選択式の問題で正答率が低い傾向が見られるので、分かりやすく、実生活に結びついた資料を提示するなど興味を引く授業展開を研究し、基礎的・基本的な内容の定着を図っていく。</p>
歴史	<p>平均正答率は県の平均より0.9ポイント、市の平均より4.1ポイント低い。</p> <p>○古代の日本(倭)の対外関係についての理解を問う短問式の問題は県の平均より16.1ポイント、市の平均より6.9ポイント高い。</p> <p>○複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、律令制下の負担に対する農民のとった行動を問う記述式の問題は、県の平均より2.4ポイント高い。</p> <p>●旧石器時代から縄文時代にかけての生活の変化を問う選択式の問題では、県の平均より6.5ポイント、市の平均より7.9ポイント低い。</p> <p>●大化の改新の概要についての理解を問う選択式の問題では、県の平均より6.0ポイント、市の平均より7.9ポイント低い。</p>	<p>・全体的に既習事項の定着が弱い。よって、AIドリルを使って復習する時間を設けたり、授業の中で復習する時間を設けたりするなどし、まずは教師主導で学習のサイクル化を図っていく必要がある。</p> <p>・選択式の問題で正答率が低い傾向が見られるので、時代の流れが捉えられるような史料を提示するなど、生徒の思考を整理できる授業展開を研究し、基礎的・基本的な内容の定着を図っていく。</p>

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	45.1	49.7	47.6
	図形	39.8	49.2	47.7
	関数	32.2	38.0	36.8
	データの活用	39.7	49.6	48.5
観点	知識・技能	46.2	54.0	52.5
	思考・判断・表現	30.4	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

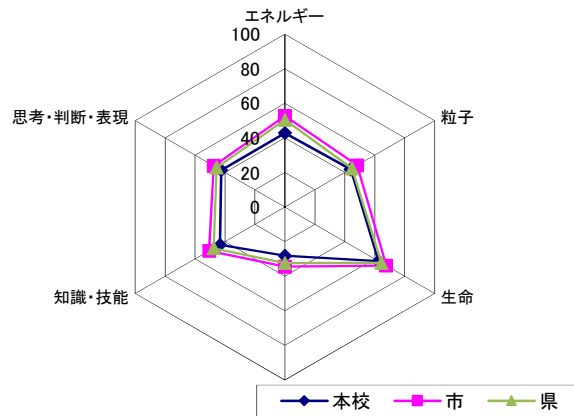
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は、県の平均より2.5ポイント、市の平均より4.6ポイント低い。</p> <p>○一次方程式を解くことができるかどうかをみる問題の正答率は県の平均と同程度であった。</p> <p>●与えられた情報をもとに、数量の関係や法則などを文字を用いた式で表す問題は、県の平均との差が大きい。</p>	<p>・文章が長い問題、自分で説明したり、表現したりする問題については、授業中に思考し、伝える機会を増やすことで身に付けさせる。また様々な計算問題に触れることで計算能力の向上を図らせる。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均より7.9ポイント、市の平均より9.4ポイント低い。</p> <p>●半球の表面積の求め方について、正しくない理由を説明する問題は、県の平均との差が大きい。</p>	<p>・体積や表面積を求める問題では、解答を求めるだけでなく、式の意味をとらえるようにする。</p>
関数	<p>平均正答率は、県の平均より4.6ポイント、市の平均より5.8ポイント低い。</p> <p>●会話文を読んで、反比例を用いて答えを求める問題は、県の平均との差が大きい。</p>	<p>・式と表とグラフの関連性を意識した授業を行う。</p> <p>・利用の問題を身の回りの問題と関連付けながら、丁寧に指導し、記憶の定着を図る。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均より8.8ポイント、市の平均より9.9ポイント低い。</p> <p>●度数分布表から、ある階級までの累積度数を求める問題は、県の平均との差が大きい。</p>	<p>・まずは基本となる用語を定着させる必要がある。</p> <p>・身の回りのデータと関連付けながら、生徒が主体となってデータを扱う活動を取り入れる。</p>

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	42.8	52.7	50.5
	粒子	43.9	48.3	44.9
	生命	62.5	67.6	64.4
	地球	28.1	34.4	32.3
観点	知識・技能	43.4	50.7	47.6
	思考・判断・表現	42.6	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

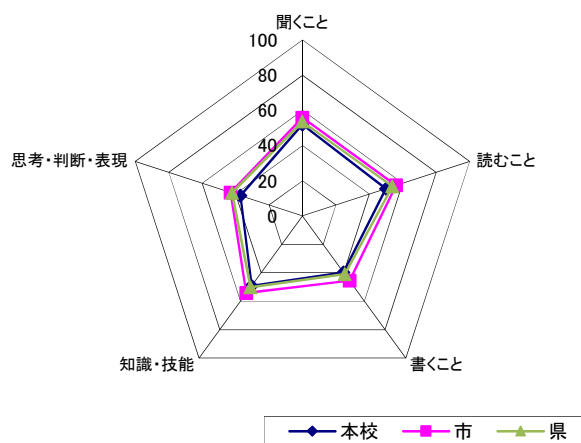
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>平均正答率は県平均と市平均より低い。</p> <p>○実験結果から焦点距離を求めることが理解できている。</p> <p>●実像や虚像の作図に苦手を感じている。</p> <p>●ばねに加わる力の大きさとばねののびの関係についての実験結果からその考察を導く力に課題が見られる。</p> <p>●重力とつり合いについての理解に課題が見られる。</p>	<p>・図を用いて現象を可視化し、理解を図れるようにする。</p> <p>・一人一人が自分で作図をする活動を充実させる。</p> <p>・演習問題や復習に取り組む時間を設け、基礎・基本の充実を図るとともに、活用力の向上にもつなげる。</p>
粒子	<p>平均正答率は市平均より低い、県平均と同程度である。</p> <p>○実験を安全に行うための行動や、蒸留の実験結果から蒸留の名称を答えるなどの知識は正答率が高く、理解できていることが分かる。</p> <p>●質量パーセント濃度を用いて取り出した塩分の量を求めることについての理解に課題が見られる。</p>	<p>・生徒が予想や考察で、思考する活動を充実させる。キーワードの提示や、ポイントとなる事象現象を強調することなどで、思考する活動への苦手感を軽減させ、思考の言語化を習慣化させていく。</p> <p>・演習問題や復習に取り組む時間を設け、基礎・基本の充実を図るとともに、活用力の向上にもつなげる。</p>
生命	<p>平均正答率は県平均と市平均より低い。</p> <p>○脊椎動物の共通点と差異点に着目し、分類の観点を選ぶことについて県平均より正答率が高い。分類の着眼点について理解できていることが分かる。</p> <p>○実験結果から根と子葉の数を選ぶことができる。</p> <p>●具体的に節足動物から昆虫類を分類することに若干の課題が見られる。</p>	<p>・覚えたものを、活用できるように身のまわりの事物現象をとりあげ、考えさせる時間を設定する。</p> <p>・演習問題や復習に取り組む時間を設け、基礎・基本の充実を図るとともに、活用力の向上にもつなげる。</p>
地球	<p>平均正答率は市平均より低い。</p> <p>○地層のでき方と時間的な変化を関連図けて正しい考察結果を選ぶことについての正答率が県の平均より高い。</p> <p>●火成岩・堆積岩についての理解や分類について課題が見られる。</p> <p>●地震についての理解に課題が見られる。</p>	<p>・グラフの作成や資料の読み取りについて、演習問題を活用し、理解を深めるようにする。</p> <p>・音の速さやフックの法則、地震の伝わる速さなど、計算が関係してくる問題についても演習問題を活用し、理解を深めるようにする。</p> <p>・岩石の分類については、成り立ちとの関連性に注目しながら理解を深めるようにする。</p>

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	51.9	55.8	53.5
	読むこと	49.9	56.0	53.8
	書くこと	39.8	45.6	40.9
観点	知識・技能	49.2	54.3	50.2
	思考・判断・表現	37.1	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は、県の平均に比べて1.6ポイント低い。</p> <p>○絵を適切に表している英文を選ぶ問題では、平均正答率が87.7%と高く、県の平均を15.5%上回っている。リスニングの概要を捉えるという問題において、ほとんどの生徒が慣れているものと考えられる。</p> <p>●英文を聞き取り、たずねられたことに対して自分の考えを簡潔に答える問題では、正答率が16.5%と低かった。いくつかの情報から自分の考えをまとめ、書くという作業に苦手意識がある生徒が多い。</p>	<p>・普段の授業の中に可能な限り、まとまった量の英語を聞き取らせる指導を組み入れていきたい。ALTとのチームティーチングでは、学年に応じてALTの説明や指示の日本語での補足を減らして、生徒たち自身の力で推測させるように心がけたい。</p> <p>また、教科書の内容をデジタル教科書やパワーポイントを使って導入する際、簡単な表現を交えて会話や物語の内容を把握できるようにし、おおまかな話の流れをつかませたい。その際、聞き取ったあらすじを書かせたり、特にポイントとなる質問に答えさせるなどの活動を増やしていきたい。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県の平均に比べて3.9ポイント低い。</p> <p>●日常的な話題について、英文から必要な情報を読み取り、条件に合う日と時間の組み合わせを選ぶ問題では、正答率が61.8%とであり、県の平均を7%下回った。複数の情報を読み取って答えを出したり、細かい内容まで理解することができていないと考えられる。</p>	<p>・教科書の読み物教材を扱うときには、最初に個人読みの時間をとり、○×問題を行いたい。また、人称代名詞や不定代名詞、指示語が何をさしているかの問題を出すなど、複数の読み取り問題に挑戦させたい。</p> <p>さらに、実際に役割を演じながら読みの練習をさせることにより、自然に会話の流れをつかめるようにしたい。電話、メール、道案内、買い物等、教科書の進度にあわせて様々な場面でペアワークを取り入れたい。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、県の平均とほぼ同等である。</p> <p>○対話が成り立つように空欄に「疑問詞」や「過去形」を書く問題では、いずれも正答率が県の平均を大きく上回っている。単語テストを通して、1年次で学習した疑問詞の用法や時制が定着していると考えられる。</p> <p>●日常的な話題に関して読んだことについて、自分の考えを整理し、まとまりのある文章を書く問題では、正答率が6.6%と低かった。また、無解答率が40.1%と高かった。自分の考えを整理して、まとまりのある文を書く練習が不足していると考えられる。</p>	<p>・過去に学習した単語、熟語、慣用表現、基本文を復習するために、家庭学習の課題として書き取りの宿題を課すなど、授業では確保しにくい「英語を書いて練習する活動」に取り組ませたい。</p> <p>英文文に関しては、授業での基本文定着のための活動(キーセンテンスをインプットする活動)や、自己表現英作文に取り組む活動(その授業の基本文をテーマとする表現活動)に力を入れていきたい。その際、基本となる文に加えて、さらに追加で2~3文の自己表現を加えられるように促していきたい。</p>

宇都宮市立陽南中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習においては、「学校の宿題は、自分のためになっている。」の肯定的回答が91.5%（県91.4%）、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の肯定的回答が95.5%（県89.7%）といずれも県の平均を上回っている。「家の人と学習について話をしている。」の肯定的回答が82.0%で県の平均を3.3%上回っていることから、日頃から学習面において、協力的な家庭が多いことがわかる。学校質問調査の「やり方を生徒に十分説明して、宿題を出している。」の肯定的回答割合の高さと合致している。

●「毎日、朝食を食べている。」の肯定的回答が89.7%に対して、「食べていない。」回答が5.8%、「早寝、早起きを心がけている。」の肯定的回答が68.2%に対して、「心がけていない。」の回答が12.1%、「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画を見たり、聞いたりしますか。」の4時間以上の回答が14.8%ある。生活習慣に関しては各家庭の差が大きいことがうかがえる。

○学校での学習については、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」の肯定的回答が77.6%であり、県平均を3.9%上回っている。質問しやすい学級作りや、自己肯定感を高める声かけなど学級・教科担任の指導の工夫が見られる。「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。」の肯定期回答が94.7%であり、「自分には良いところがあると思う。」の肯定的回答が82.1%であり、県平均を1.8%上回っているということから、授業中や学校生活を通して生徒と教師の信頼関係が良好であることがわかる。

○●「各教科の授業の内容はよく分かる。」の肯定的回答が、5教科において80%前後であるのに対して、「各教科の学習は好き。」の肯定的回答は60%前後であった。さらに、「各教科の学習は、将来のために大切か。」の肯定的回答が80%～90%の教科が多いので、将来を見据えた、実践的で興味関心をもたせる指導の工夫をしていく必要がある。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の肯定的回答が80.3%であり、県の平均を2%上回っている。社会に目を向け、興味関心を高められるような働きかけを継続していきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学ぶ意欲の育成や基礎・基本的な習得に努める。 家庭学習の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 学業指導の理念・宇都宮モデルを踏まえる。 タブレット端末を活用しながら生徒一人一人の家庭学習の定着を図るとともに、AIDリルの積極的な運用に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の中で目標が示されている」の肯定的回答は95.5%で県平均より1.5%下回っている。 「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答は84.2%で県平均より3.0%上回っている。 「平日の家庭での学習時間が2時間以上」の回答が22.9%で、ほぼ県平均である。 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする。」の肯定的回答が84.7%で県平均より2.8%下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習でのタブレット使用が不十分である。 授業中に学んだことを生かして自分の考えを伝え合う活動が足りない。 課題に対して考え、思考を深める活動の工夫が足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習でAIDリルの活用や調べ学習を行う。 授業を見直し、自分の考えを伝えたり、振り返りでまとめる活動を行う。 授業の中で、課題に対して自ら考える目的・場面・状況を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> AIDリルの活用。自主学習ノートの活用。 タブレット活用(キャンバ等)により、意見交換の機会を増やす。 対話から学びが深まる授業形態の工夫を行う。 授業中のグループ活動の中で積極的に話し合い活動を行う。